

都市再生整備計画 事後評価シート

宇都宮市大谷地区

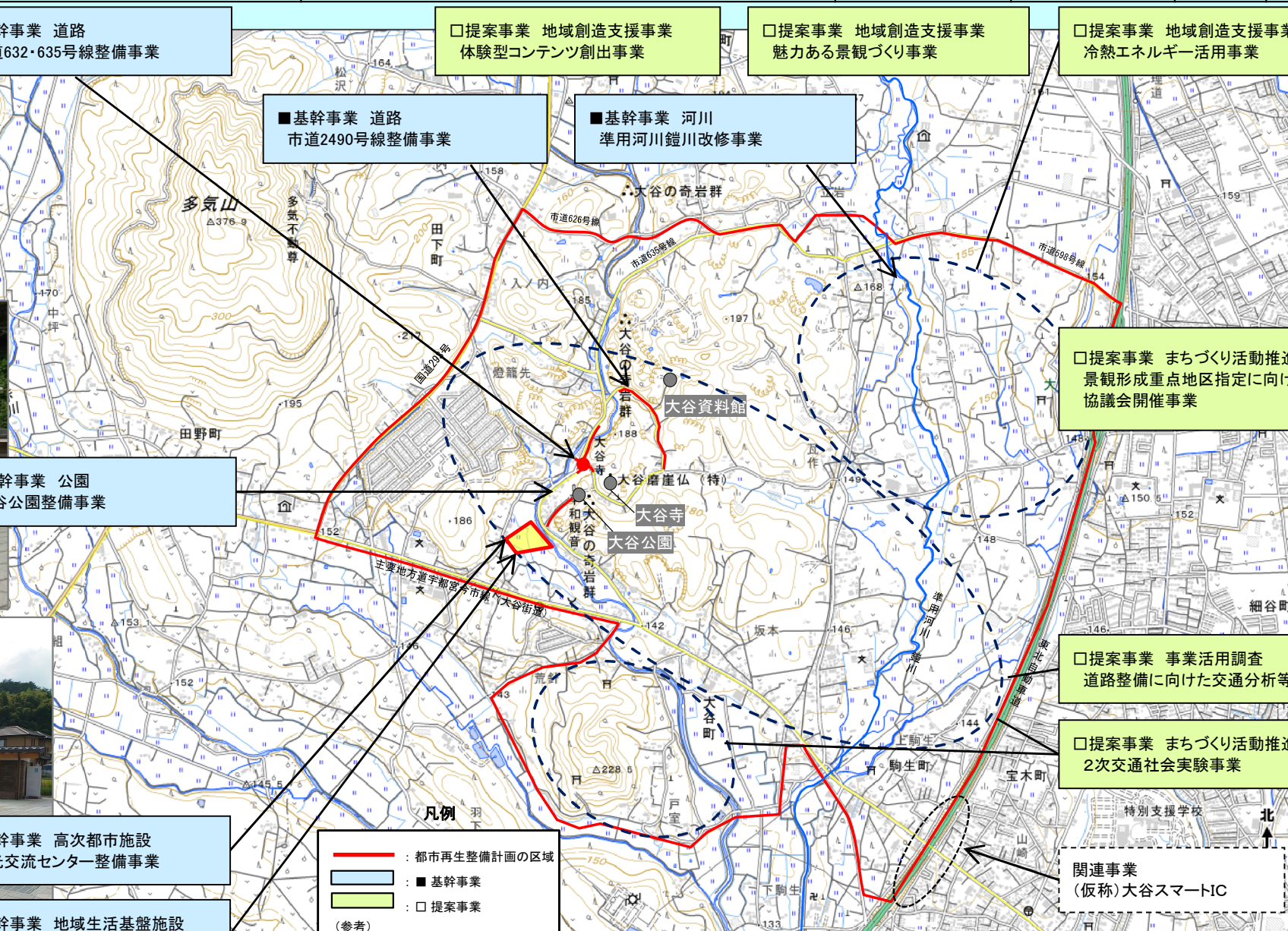
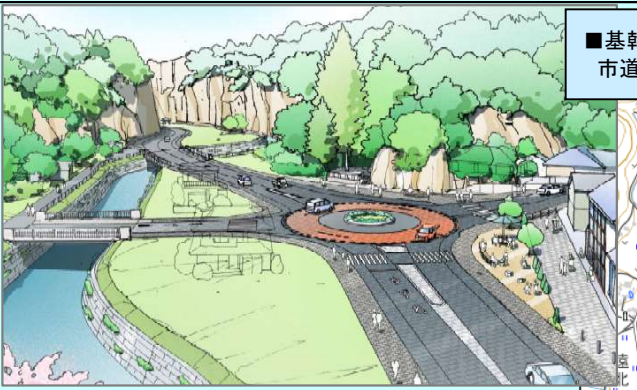
令和6年12月

栃木県宇都宮市

様式2ー1 評価結果のまとめ

都道府県名	栃木県		市町村名	宇都宮市		地区名	大谷地区			面積	524ha			
交付期間	平成31年度～令和6年度		事後評価実施時期	令和6年度		交付対象事業費	2892.6百万円		国費率	0.4				
1)事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業		事業名											
		基幹事業	道路(市道2490号線整備事業、市道632・635号線整備事業、市道640号線整備事業)、公園(大谷公園整備事業)、地域生活基盤施設(広場整備事業、駐車場整備事業、情報版整備事業)、高質空間形成施設(公衆トイレ整備事業)、高次都市施設(観光交流センター整備事業)											
		提案事業	地域創造支援事業(体験型コンテンツ創出事業、冷熱エネルギー活用事業、事業活用調査(交通分析等調査、拠点機能整備に向けた民間活力活用方策等調査事業)、まちづくり活動推進事業(2次交通社会実験事業、景観形成重点地区指定に向けた協議会開催事業、シンポジウム開催事業)											
	当初計画から削除した事業	基幹事業	事業名				削除/追加の理由				削除/追加による目標、指標、数値目標への影響			
			道路(市道640号線整備事業)				道路の予防保全工事の実施を見込んでいたが、地質等に関する調査の結果、整備不要であることを確認したことから、事業を削除				影響なし			
			地域生活基盤施設(駐車場整備事業)				観光交流センターの付帯整備の要件に合致したことにより、観光交流センター整備事業として高次都市施設に位置付けを変更したことから、事業を削除				影響なし ※駐車台数:計画計上時100台→現在111台			
			地域生活基盤施設(情報板整備事業)				当初、デジタルサイネージは本市で設置予定であったが、民間活力の積極的な活用へと方針を見直したことから、事業を削除				影響なし ※民間事業者が設置済み			
			高質空間形成施設(公衆トイレ整備事業)				当初、単独施設として整備予定だったが、予定箇所がセンターと近接していることにより、トイレの配置について再精査した結果、高次都市施設(観光交流センター整備事業)に集約したことから、事業を削除				影響なし			
		提案事業	事業活用調査(拠点機能整備に向けた民間活力活用方策等調査事業)				当初、拠点施設への多様な機能の誘導について検討調査等を予定していたが、拠点施設建設予定地周辺への新たな民間商業施設等の立地に伴い、多様な機能の誘導を検討する必要がなくなったことから、事業を削除				影響なし			
			まちづくり活動推進事業(シンポジウム開催事業)				当初、大谷のPR等を目的にシンポジウム開催を予定していたが、企業誘致セミナーとあわせて大谷地区のPR事業を多くの事業者等に対し実施することが、より効果的であると判断したことから、事業を削除				影響なし ※別事業でより効果的なPRを実施			
			新たに追加した事業	基幹事業	河川(準用河川鍮川改修事業)				鍮川周辺の農地で浸水被害が発生しており、被害を軽減し、地域資源である農業を守るために河川改修が必要であることから、事業を追加				影響なし	
	提案事業	魅力ある景観づくり事業				大谷地区の魅力ある景観の保全・創出を目指し、令和2年度に本地区を景観形成重点地区等に指定したことから、地区内の既存不適格の建築物等の整備費を一部補助し、景観づくりを促進するため、追加				影響なし				
	交付期間の変更	当初	平成31年度～令和4年度			交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響	影響なし							
変更		平成31年度～令和6年度												
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		単位	従前値		目標値		数 値		目標達成度	1年以内の達成見込み		効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期
	指標1	観光客の年間入込客数	人	700,000人	H29	800,000人	R6	モニタリング	評価値	△	あり	○	コロナ禍の影響により、令和元年度から令和2年度にかけて、76万人から39万人まで落ち込んだことから、目標値を達成できなかったが、ハード・ソフト両面からのアクセス性・周遊性の向上や賑わい・憩いの場の創出などにより、令和5年度にはコロナ禍前の令和元年度の99%まで戻ったことから、今後も継続した伸び率が見込める。	R7.12
											なし			
	指標2	観光産業の立地数	事業所	7事業所	H29	10事業所	R6			○	あり		地域外からのアクセス性や地域内での周遊性の向上に加え、事業化支援補助などにより、飲食・物販店などの出店意欲が高まったことから事業所が増加した。	—
											なし			
	指標3	公共交通(バス)の利用者数	人／年	101,000人	H29	120,000人	R6			△	あり	○	コロナ禍の影響により、令和元年度から令和2年度にかけて、バスの利用者数が約10.5万人から約5万人まで落ち込んだことから、目標値を達成できなかったが、観光拠点である観光交流センターを整備し、バスを安心して利用しやすい環境が整ったことや、バスと2次・3次交通がつながり、地区内の周遊性が高まったことにより、令和5年度にはバスの利用者数がコロナ禍前の令和元年度の104%まで戻ったことから、今後も継続した伸び率が見込める。	R7.12
											なし			
3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		単位	従前値		目標値		数 値		目標達成度	1年以内の達成見込み		効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期
	その他の数値指標	冷熱エネルギーを活用した事業(夏秋いちご栽培等)への参入者数	事業者	2事業者	H29			—	7事業者			鍮川改修事業の着手に加え、冷熱エネルギー活用支援補助などにより、夏秋いちご栽培事業などの参入意欲が高まったことから事業者が増加した。	—	
		その他の数値指標	「大谷観光一日乗車券」を活用して路線バスを利用した人数の推移	人/年	10,619人	H29			—	14,147人			ハード・ソフト両面からのアクセス性・周遊性の向上や、賑わい・憩いの場の創出などにより、公共交通を利用して大谷地域に来訪する方が増加した。	—
4)定性的な効果発現状況	・大谷観光の主要な動線である市道632・635号線及び大谷観光の発着・回遊の拠点となる観光交流センターの整備により、観光のメインルートにふさわしいインフラの強化によって、アクセス機能、地域の回遊性など、魅力ある観光拠点の形成に向けた様々な機能向上に繋がっている。 ・沿川農地の浸水被害の軽減を目的とした鍮川改修事業の着手により、農業環境の保全が図られることから、農業の活性化による地域振興等における地域資源の活用推進に繋がっている。 ・大谷公園及び観光交流センターの整備による賑わい・憩いの空間の創出とともに、グリーンスローモビリティ等の2次交通の導入による観光施設間の周遊促進などの結果、多くの来訪者が訪れたことで、幅広い媒体での、歴史文化資源をはじめとする地域資源の魅力発信に繋がっている。 ・魅力ある観光拠点の形成に向けて、地域資源を生かした特色ある景観を保全・創出するため、景観形成重点地区等の地区指定を行い、地域資源(大谷石)の活用や、良好な周辺景観に配慮した建築物等の整備の促進などを実施したことにより、地域の魅力向上に繋がっている。													
5)実施過程の評価		実施内容				実施状況				今後の対応方針等				
	モニタリング	—				都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				—				
	官民連携による取組	・グリーンスローモビリティ等の2次交通社会実験の実施				都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				●	・大谷地域における端末交通や域内移動手段として、グリーンスローモビリティ等の定着を図るため、市から地域中心の運営体制への移行や人材確保・育成、更なる利用促進に向けたPR手法等の検証を行う。			
		・景観形成重点地区指定に向けた協議会開催事業				都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				●	・引き続き、魅力ある景観づくりを推進するため、景観形成重点地区等の指定範囲などの検討に向け、協議会を開催していく。			
		・景観づくり推進協議会の設立				都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				●	・引き続き、魅力ある景観づくりを推進するため、景観形成重点地区等の指定範囲などの検討に向け、協議会を開催していく。			
	持続的なまちづくり体制の構築	・「大谷地域観光交通対策推進会議」における混雑緩和・周遊促進策の検討				都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				●	・引き続き、観光交通対策推進会議での情報共有・意見交換等を踏まえながら、大谷地域の観光交通推進に向けた検討を行っていく。			

様式2-2 地区の概要

大谷地区（栃木県宇都宮市）都市再生整備計画事業の成果概要									
まちづくりの目標		目標を定量化する指標		従前値		目標値		評価値	
大目標：ネットワーク型コンパクトシティにおける魅力ある観光拠点の形成 目標1：歴史文化資源をはじめとする地域資源の地域振興等での活用の推進 目標2：歴史文化資源をはじめとする地域資源の保存活用が多様な主体の参画促進 目標3：歴史文化資源をはじめとする地域資源の魅力発信の強化		観光客の年間入込客数	単位：人	700,000人	H29	800,000人	R6	750,000人	R5
		観光産業の立地数	単位：事業所	7事業所	H29	10事業所	R6	14事業所	R5
		公共交通（バス）の利用者数	単位：人／年	101,000人	H29	120,000人	R6	109,000人	R5
■基幹事業 道路 市道632・635号線整備事業 □提案事業 地域創造支援事業 体験型コンテンツ創出事業 □提案事業 地域創造支援事業 魅力ある景観づくり事業 □提案事業 地域創造支援事業 冷熱エネルギー活用事業 ■基幹事業 道路 市道2490号線整備事業 ■基幹事業 河川 準用河川鑑川改修事業 ■基幹事業 公園 大谷公園整備事業 □提案事業 まちづくり活動推進事業 景観形成重点地区指定に向けた協議会開催事業 □提案事業 事業活用調査 道路整備に向けた交通分析等調査 □提案事業 まちづくり活動推進事業 2次交通社会実験事業 ■基幹事業 高次都市施設 観光交流センター整備事業 ■基幹事業 地域生活基盤施設 広場整備事業 凡例 — 都市再生整備計画の区域 ■ 基幹事業 □ 提案事業 (参考) ○ 関連事業 									
まちの課題の変化		- 観光交流センターや地域の主要道路、公園の整備による周遊・滞在性の向上に加え、域内移動手段の充実や魅力ある景観づくりなどにより、地域全体での面的な交流や賑わいの創出が図られたことから、今後、来訪者数の増加を見据え、域外からのアクセス性の向上や安全かつ快適に回遊できる移動手段の構築、滞在環境の向上を引き続き進める必要がある。 - 鑑川改修事業により、周辺農地の浸水被害の軽減が図られることから、引き続き事業を進めることで、農業環境を保全していく必要がある。 - また、冷熱エネルギー活用事業により、地域独自の冷熱エネルギーを活用して作られる「大谷夏いちご」が地域ブランド化したことから、地域ブランド確立に向けては、収量を拡大し、他の地域資源とともに一体的なPRを実施するなど、引き続き地域資源の魅力発信を強化する必要がある。							
今後のまちづくりの方策（改善策を含む）		- 観光交流センター（愛称：大谷コネクト）や大谷公園・大谷景観公園等の継続的な利活用を促進する必要があることから、多種多様なイベントの開催等で利用しやすい環境づくりに取り組んでいく。 - 域外からのアクセス性や周遊性・滞在性のさらなる向上を図る必要があることから、県などの関係機関と連携を図りながら、道路整備や2次交通社会実験の実施など、ハード・ソフトの両面からの整備・検討により、引き続き交通環境の向上に取り組んでいく。 - 来訪者による、幅広い媒体での歴史文化資源をはじめとする地域資源の魅力発信を強化する必要があることから、大谷地域周辺に位置する「道の駅ろまんちっく村」や「森林公園」などを含めた、各観光スポット間の移動手段の充実により、周遊性を高め、本市北西部エリアが一体となった観光拠点化に取り組んでいく。 - 地域資源の活用において、多様な主体による参画をさらに推進する必要があることから、地域の関係団体による定期的な協議・意見交換や地域主催イベントの開催などを伴走支援することにより、地域が主体となった持続可能な観光まちづくりを推進していく。							